

昭和51年度の公立小学校教員の平均勤務年数を地域別にみると、特A、A、B各地域は20.7年から22.3年の範囲にあるが、C地域については15.7年であり、C地域は特A、A、B各地域に比べ5年～6.6年の範囲で平均勤務年数が短いといえる(表2-2-8)。

一方、昭和49年度の公立小学校教員の学歴構成をみると、

学歴区分が大学卒のもの24.6%、短大卒のもの36.7%、高校卒のもの38.7%であり、短大卒・高校卒の教員は全教員に対し約75%を占めている(図2-2-20)。

次に、昭和49年度における公立小学校教員の免許状所有状況は図2-2-21のとおりであり、公立小学校全教員に対し普通免許状を有している教員は97%を占めている。

なお、教諭一級普通免許状と養護教諭一級普通免許状所有者は約71%、教諭二級普通免許状所有者と養護教諭二級普通免許状所有者は約26%であり、臨時免許状所有者は約3%となっている。

以上のことから、本県の公立小学校教員の平均年齢は約42歳、平均勤務年数約20年であり、教職経験豊かな教員配置がなされているといえる。一方、小学校教員の学歴別構成でみると、学歴区分が短大卒、高校卒の占める割合が約75%と大学卒のものを大きく上回っている。

表2-2-7
地域別にみた小学校教員の平均年齢
(単位:歳)

地域	年齢
特 A	41.5
A	43.0
B	42.8
C	36.6

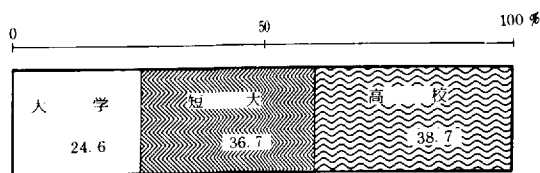
注: 1. 「総務課調査」(昭51)による。
2. 地域区分は図2-2-14の注による。

表2-2-8
勤務年数でみた公立小学校教員の地域別配置状況
(単位:年)

地域	平均勤務年数
特 A	20.7
A	22.1
B	22.3
C	15.7

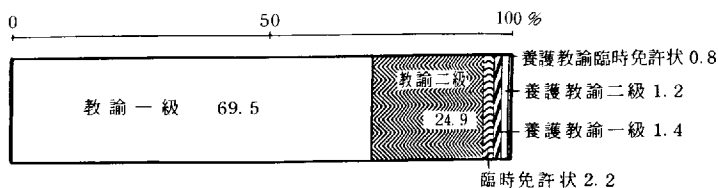
注: 1. 「総務課調査」(昭51)による。
2. 地域区分は図2-2-14の注による。

図2-2-20 小学校教員の学歴別構成の割合



注: 1. 「教育調査報告書」(昭49)による。
2. 公立小学校教員921人を対象に抽出調査したものである。
3. 割合 = (対象学歴数) ÷ (抽出小学校教員数) × 100

図2-2-21 小学校教員の普通免許状所有の割合



注: 1. 「教育調査報告書」(昭49)による。
2. 公立小学校教員921人を対象に抽出調査したものである。
3. 割合 = (免許状種別教員) ÷ (抽出中学校教員数) × 100

従って、今後は、公立小学校教員の年齢の高齢化に対する施策を検討するとともに、教育水準の維持向上のため、性別、

年齢、勤務年数、免許状種別等を考慮した教員構成を図る必要があろう。

(4) 小学校教員の週当たり平均担当授業時数

昭和50年度における公立小学校教員(教頭を除く)の週当たりの担当授業時数について、低学年、中学年、高学年別にみたのが図2-2-22である。